

行幸町遺跡の発掘調査

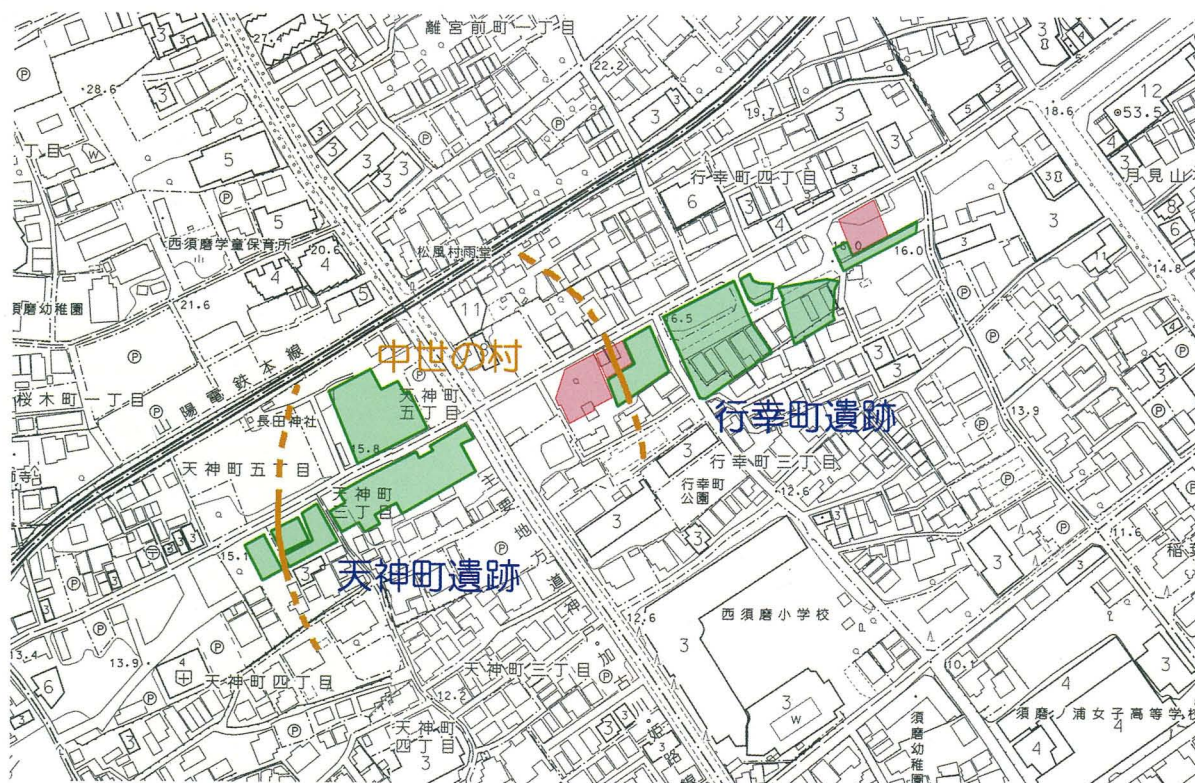
— 平成 15 年度 中央幹線築造に伴う発掘調査 —

行幸町遺跡と天神町遺跡

平成 8 年 (1996) に行った^{いせき}遺跡の確認調査で、中央幹線予定地から新たな遺跡が発見されました。町名から『天神町遺跡』、『行幸町遺跡』と名付けました。これまでの調査で、最も古いものは約 1 万年前の縄文時代^{じょうもんじだい}早期の石器^{そうき}が見つかっています。この付近を、縄文人が生活の場として^か駆け巡っていたと考えられます。調査が進むにつれ、東の行幸町には奈良時代 (8 世紀) の大溝が、西の天神町では鎌倉^{かまくら}～室町^{むろまち}時代 (13～15 世紀) の中世の村があったことが分ってきました。



縄文時代早期の石器

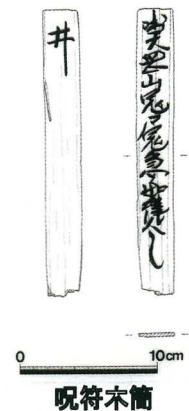


H8～13 年度調査
 今年度の調査

中世の村

離宮道をはさんだ天神町と行幸町にまたがる東西約 200mの範囲には、鎌倉・室町時代の中世の村が広がっていたことが分かってきました。これまでの天神町の調査では、建物の跡や井戸が見つかり、井戸の中からは呪符木簡とよばれる呪い札なども見つかりました。

今年度の西側の調査地は、この中世の村の東の端にあたる所で、5基の井戸と多くの柱の跡、溝などがあり、東側の集落のまわりには畑を作っていたことがわかりました。また、当時の人のお墓も見つかりました。



↑ 井戸

時期を違えて5つの井戸が掘られている

↑ 西側の調査地 柱の穴や井戸が多くあります

中世のお墓

お墓は、おそらく屋敷の敷地の中に造られていたと考えられ、二人並んで葬られていました。ひとりには、腕と足を折り曲げたかたちで埋葬されていました。また、小さな刀（刀子）と思われるものを一緒に納めていました。

性別や年齢などは、まだわかりませんが、この2つのお墓は土ごと切り取



って埋蔵文化財センター（西区）に運び、そこで詳しく調査をします。

お墓の切取り作業

まわりを掘り下げ、全体を発砲ウレタンで包み、木枠で補強して遺構を土ごと切り取ります。 →



なぞ 謎の大溝

行幸町側の調査では、東西 150m以上続く大きな溝が見つっています。この溝は、最大幅6mで、深い部分では2mあります。また、この溝から南北に分かれるふたつの溝も見つっています。

この大溝は、飛鳥時代（7世紀後半）に掘られ、奈良時代頃（8世紀）には大部分が埋もれてしまったと考えられます。この溝が掘られた目的ははっきりしませんが、奈良時代には木を組んだしがらみ（柵）を溝の中に作っており、用水としていたのではないかと推測されます。また、溝からは、奈良時代の人々が字の練習をした、墨の残った木片などが出ています。



↑ 溝底から出土した木製品



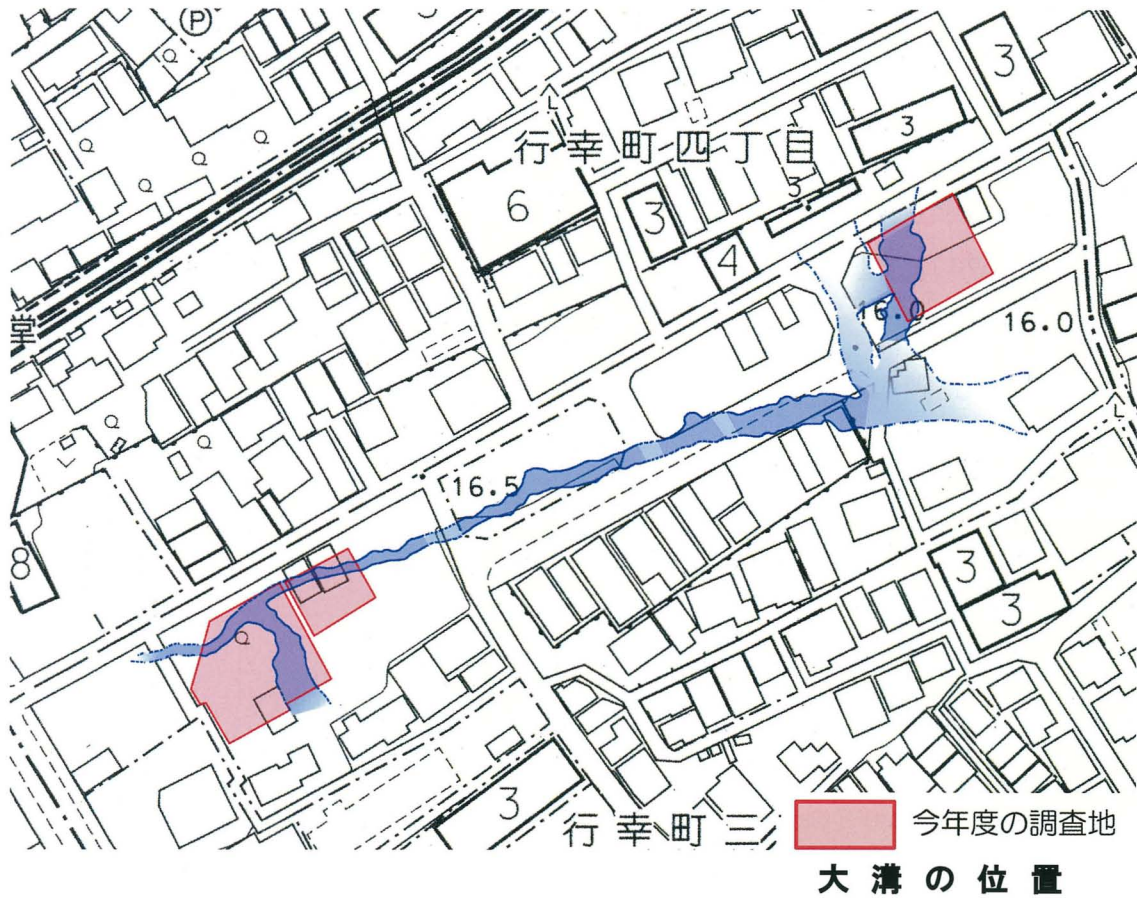
↑ 大溝はV字状の断面で少し蛇行しています。

溝の幅は東ほど広くなり、西から東に向かって流れていたと考えられます。

← しがらみ（柵）のあと

水を堰き止めるために、杭を打って横木を渡してある。

今年度の東の調査地では、東西方向の大溝から分かれた南北方向の溝が見つかりました。この溝は奈良時代のもので、一度埋まった溝を再び掘りなおしていることが分かりました。溝の底からは、奈良時代の土器の破片や桃の種が見つかりました。



神戸市埋蔵文化財センター

神戸市埋蔵文化財センターは、地下鉄西神中央駅のすぐ近く西神中央公園のなかにあります。市内の発掘調査で出土した土器や石器などは、ここで調査、整理、収蔵しています。

また、「よみがえる神戸の歴史」をテーマに出土品を常設展示しており、収蔵展示室では地域別に多くの出土品を展示し、ご近所の遺跡の出土品を見ることができます。遺跡から出た土器や石器などを身近にして、むかしの神戸の人々の生活や歴史を体感できる施設です。体験考古学講座や企画展示も定期的を開催しています。



あなたも、是非、いにしへの神戸の人々と、じかにふれ合うことのできる
埋蔵文化財センター にお越しください。

地下鉄西神中央駅下車南へ徒歩5分

入館無料

月曜休館

TEL078-992-0656